

## 患者サポートセンターだより

### 西館がオープン 3診療科スタート

医仁会武田総合病院は、より高度で専門的な医療を地域にご提供するため、新設の西館で膠原病・リウマチ内科（三森経世 院長）、内分泌内科（成瀬光栄 内分泌センター長）・ペイン外来（薬師寺勤 麻酔科部長）の3診療科を11月5日からスタートさせました。

当院では専門外来の充実・救急・入院等の役割を果たし、地域の先生方と一緒にしてお一人おひとりの患者さんを支えることで、安心ある地域づくりへの貢献をめざします。



## 患者サポートセンター 活動のご案内



「明日から入院です。何をしたらいいのでしょうか・・・」  
こうした不安を抱かれる患者さんやご家族が安心できるよう、様々な職種がチームとなって支えるのが患者サポートセンターです。

例えば看護師は、これからの入院生活についてご説明し、治療を見守られるご家族が安心できるよう様々なアドバイスをさせていただきます。医事職員は、治療費をはじめとする経済的な不安が少しでも解消できるよう、利用できる制度などの情報提供を行っています。

患者さんやご家族のお気持ちに寄り添うよう真摯な対応を心掛けていますので、まずは当センターにご相談ください。

#### 理念

- ・思いやりの心
- ・地域社会の信頼
- ・職員相互の信頼

#### 基本方針

- ・ブリッジ・ザ・ギャップス
- ・患者さんの権利尊重
- ・信頼の医療に向けて
- ・地球にやさしい環境づくり

#### 環境方針

- ・省資源・省エネルギーの推進
- ・廃棄物の3R  
(減らす、再使用、再資源化)の推進
- ・安全性・快適性の推進
- ・環境広報活動の推進



# 患者さんが安心して治療できる “チーム医療” を

呼吸器内科 前川 晃一 部長



## 専門・得意分野

呼吸器内科一般

## 認定・資格

京都大学医学博士、日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、日本呼吸器学会専門医・指導医、日本呼吸器内視鏡学会専門医、日本結核病学会結核・抗酸菌症指導医、日本アレルギー学会、がん治療認定医

呼吸器内科は内科の一部門で、肺炎・結核などの感染症から、肺がん・胸膜中皮腫などの悪性疾患、喫煙による COPD、気管支喘息などのアレルギー疾患、間質性肺炎、膠原病関連肺疾患などさまざまな疾患を扱います。

近年、超高齢社会を反映し、誤嚥性肺炎を代表とする肺感染症や肺がんなど悪性疾患の患者数が年々増加してきており、ますます呼吸器診療科の需要が高まってきている状況です。特に肺がん診療では、免疫チェックポイント阻害薬に代表される新規抗がん剤の登場により、さまざまな治療オプションが考えられる状況にあり、呼吸器外科などとも相談しあいながら、個々の

患者さんに合った治療法を提案させていただいております。

当科は呼吸器内科指導医 2 名、専門医 1 名、専攻医 1 名で診療に当たっており、日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設に認定されています。

今までは関節リウマチなどの膠原病に関連した肺合併症は膠原病専門科のある他院に診療をお願いすることもありましたが、本年 4 月より京都大学医学部附属病院免疫・膠原病内科の三森前教授が院長に就任され、11 月に膠原病・リウマチ内科が立ち上げられました。そのため当院呼吸器内科で対応できる疾患がさらに広がったといえます。

“慢性呼吸器疾患患者さんへの身体・呼吸リハビリ” や、“高齢患者さんの退院後環境の調整”、“悪性疾患患者さんの緩和ケア” や “安心して抗がん剤治療ができるように” などを治療方針に掲げ、看護部門・薬剤部門・検査部・リハビリテーション部門・栄養部・緩和ケアチーム・患者サポートセンターと密に連携しながらチームで診療を行っております。呼吸器症状、胸部症状などありましたら、紹介・受診していただければ幸いです。



組織や細胞を採取して正確な診断へ導く気管支鏡検査



口から3～6ミリ程度の内視鏡を入れる

## 仲 恵 医長

専門・得意分野  
呼吸器内科、閉塞性肺疾患

### 認定・資格

京都大学医学博士、日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、日本呼吸器学会専門医・指導医、日本呼吸器内視鏡学会、日本アレルギー学会

## 小西 智沙都 医員

専門・得意分野  
呼吸器内科全般

### 認定・資格

日本内科学会認定内科医、日本呼吸器学会専門医、日本呼吸器内視鏡学会

## 首藤 紗希 医員

診療科目  
呼吸器内科

### 認定・資格

日本内科学会認定内科医

# 他科と連携し、根治を目指す

呼吸器外科 鈴木 雄治 部長

2003年4月に当院呼吸器外科に着任し16年が経過しました。2002年までは呼吸器外科としては年間30例ほどの手術であったため、当初常勤医は私ひとりで手術の時だけ助手の先生を大学から派遣していただいていたのですが、その後手術の数が徐々に増えたため2004年から常勤医2人体制になり、2011年から年間100例をコンスタントに超えるようになってから4年前の2015年から現在の常勤医3人体制へと至ります。

呼吸器外科の対象となる疾患は肺がん、気胸を代表とする肺疾患にとどまらず、縦隔、胸壁など心臓大血管以外の胸腔内のすべての範囲を対象としています。

また手術においては胸腔鏡手術技術の進歩と手術機器の進歩により、ほとんどの手術が胸腔鏡下で施行されることになりました。肺がんなどの肺切除のみならず、胸腺腫を代表とする縦隔腫瘍もほとんどが胸腔鏡下手術で切除できるようになりました。

特殊な手術としては手掌多汗症に対する胸腔鏡下の胸部交感神経遮断術や重症筋無力症に対する胸腺切除術などがあります。救急医療においては他科と連携し、外傷性血気胸などの胸部外傷時の呼吸管理や手術を担当しています。

肺がんにおいてはCTなどの検査機器の進歩によりレントゲンでは写らない極初期のがんもしばしば見つかるようになり、このようなケースでは肺も一部のみの小さな切除で根治できるようになりました。また逆に進行した肺がんでも、免疫チェックポイント阻害薬、分子標的薬など新規抗がん剤の登場により、これらの治療を先行させることで今までは手術できなかったケースも中には手術可能となる場合があります。肺がんにおいては常に呼吸器内科、放射線科の先生方と密に相談しながら治療方針を決定しております。

今後も地域のみなさんから信頼される医療を提供できるようスタッフ一同努力してまいります。

## 専門・得意分野

手術、肺がん治療

## 認定・資格

日本呼吸器外科学会専門医・評議員、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医・指導医、日本外科学会専門医、日本呼吸器病学会専門医、日本がん治療認定医機構認定医、日本胸部外科学会、日本内視鏡外科学会、日本肺がん学会、日本結核病学会



胸腔鏡下手術の様子



開胸手術に比べ、体力的負担が軽く早期社会復帰も可能

赤澤 彰 医員



専門・得意分野  
肺がん診療

認定・資格  
日本外科学会、日本呼吸器外科学会、日本呼吸器内視鏡学会、日本肺がん学会

北村 将司 副部長



専門・得意分野  
肺がん診療、胸腔鏡手術

認定・資格  
日本外科学会専門医、気管支鏡専門医・指導医、呼吸器外科専門医、結核・抗酸菌症認定医、インфекションコントロールドクター、がん治療認定医

呼吸器外科

# 地域の病診連携を促進させる第58回特別講演会を開催 「65歳以上の栄養摂取のギアチェンジ」など新たな知見を学ぶ

糖尿病の最新の知見や興味深い症例について情報共有する第58回「特別講演会」が9月28日、ホテルグランヴィア京都で開催されました。当日は、京都南部地域の開業医、医療従事者ら多くの参加者が出席し、闊達な意見交換を行いました。



京都大学大学院医学研究科  
糖尿病・内分泌・栄養内科学  
稲垣 暢也 教授

演題発表1では、伏見医師会（ほそみ医院）の細見明子先生が座長を務められ、当院形成外科の米谷あずみ副部長が「当院で経験した壊死性軟部組織感染症の7例」と題し講演しました。

米谷副部長は、急速に進行する壊死性病変である壊死性筋膜炎について解説。65歳男性や80歳女性など7例を紹介し「壊死性筋膜炎の診断は臨床・画像所見合わせて総合的に行うべきであり、重症蜂窩織炎との鑑別が難しい場合は皮下組織を確認することが早期診断に有用で手術を躊躇しないことが肝要」と強調しました。

続く演題発表2では、伏見医師会（やまうちクリニック）の山内宏哲院長が座長を務められ、当院放射線科の森里美医師が「低異型度虫垂粘液性腫瘍の一例」と題し、講演しました。

森医師は虫垂粘液性腫瘍について、虫垂内腔に粘液が貯留して嚢状に拡張した状態を指し、疾患単位を指すものでないことなどを解説。さらに、組織学的には良性でも破裂などにより腹膜偽粘液腫をきたすと予後不良になる「低異型度虫垂粘液性腫瘍」について解説しながら84歳女性の症例を紹介。「造影CTや造影MRIで充実性成分や不整な壁肥厚が認められれば、粘液がんや他の虫垂がんを疑うことができる」など、虫垂粘液腫における画像診断の役割について説明しました。

特別講演では、当院糖尿病センターの東信之主任部長が座長を務め、京都大学大学院医学研究科・糖尿病・内分泌・栄養内科学の稲垣暢也教授が登壇。「糖尿病をとりまく最近の話題」との演題で講演しました。

稲垣教授は、日本人糖尿病患者におけるBMIと死亡率の関係について、BMIが低い患者で死亡率が高くなるリスクデータを紹介。「65歳までは生活習慣病予防のため過栄養の抑制が大事。しかしながら65歳からは介護予防のため低栄養の抑制に努める『ギアチェンジ』が求められる」と語りました。さらに稲垣教授は、各年代のなかで最もエネルギーを摂取しているのは60代であると国民健康・栄養調査のデータを披露し、「現在のエネルギー摂取指示量の求め方は年齢の視点が欠如しており、食事摂取基準や摂取の現状と乖離（かいり）が生じうる」と問題点を指摘しました。そして、「高齢者においては、食事制限をしながら骨格筋量を保つことが極めて重要。一方で認知機能の低下を抑制し血糖値の改善を図る様々な観点で治療をすることが大事」と締めくくりました。



座長  
伏見医師会  
細見 明子 先生



形成外科  
米谷 あずみ 副部長



放射線科  
森 里美 医師



伏見医師会  
辻 光 会長

伏見医師会の辻光会長は、当講演会について「スペシャリストによる非常に専門性の高い会」との評価を語ったうえで、「武田総合病院は日頃から開業医を非常に大切にされており、会長として常々感謝しています。今後もより一層、病診連携が進むことを期待しています」と挨拶しました。

医仁会武田総合病院

患者サポートセンター

0120-72-6530

受付時間：月～金曜日 午前8:30～午後19:00 / 土曜日 午前8:30～午後17:00

※日曜日・祝日・祭日・年末年始はお休みさせていただいております。

※時間外は医事部にて対応いたします ▶ ☎ 075-572-6331 (代表)

☎ 075-572-6530 (直通)

FAX 075-572-6276 (直通)